

第2章 すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全

第1節 環境教育・学習の推進

1 現状と課題

今日の環境問題は、一企業や産業に起因する従来の**公害***問題とは異なり、利便性を追求するライフスタイルの変化に伴う大量生産、大量消費、大量廃棄による廃棄物量の増大や地球温暖化問題など、私たち一人ひとりの生活に起因するところが大きいのが特徴です。

このような今日の環境問題を解決していくためには、私たち一人ひとりが環境問題を正しく認識し、環境にやさしい生活を実践していくことが大切であり、そのための環境教育・環境学習の重要性が増してきています。

2 環境教育・学習方針の決定

府環境基本計画では6つのリーディング・プロジェクトの一つに「環境まなびの輪創造プロジェクト」を掲げており、これまでに、府内の環境学習拠点の機器整備や環境学習事業・施設等を取りまとめた「環境学習ガイドブック」の作成、環境関係の施設・人材情報の提供、体験的な環境学習講座の開催など、環境教育・環境学習を積極的に推進しています。

3 環境問題についての普及・啓発の推進

府では、環境問題に対する理解を深め、環境保全に関する意識の高揚を図るため、6月の環境月間や12月の地球温暖化防止月間等の強調月間をとらえ、重点的に啓発活動を展開しています。

12月には「京都環境フェスティバル」を開催するほか、ポスターの掲示や各種パンフレット・小冊子の配布、パネル展の開催、広報紙やテレビ、ラジオ、インターネットによる広報等、あらゆる機会、媒体を使って普及啓発を行っています。

①フォーラム・イベント等の開催

【環境フェスティバル】

府では、2年度以降、毎年、京都環境フェスティバルを開催しています。

17年度は「“もったいない”の心でひらく地球の未来」をテーマに、17年2月の**京都議定書***発効を踏まえ、「脱温暖化社会」に向けた取組を促進することに主眼を置いて開催しました。あわせて17年4月の産業廃棄物税条例の施行を受け、府民の皆さんに産業廃棄物に対する理解を深めていただくための取組も行い、環境**NPO***や企業など100団体以上の出展があり、約27,000人の多くの府民で賑わいました。地球温暖化防止の取組について、テーマゾーンやエコ・ワークショップでわかりやすく紹介したほか、風力発電やバイオマス発電による電力を利用してイベントを運営しました。

食のコーナーにおいては、リユース食器での提供によりゴミの減量に努めると同時に、容器の**デポジット***を行いました。そのほか、**低公害車***や自転車タクシーの試乗も人気を集めました。

表3-4 府環境フェスティバルの実施状況

年度	開 催 テ ー マ
14年度	守ろう地球！一人ひとりの思いやりー第3回世界水フォーラムに向けてー
15年度	身近なことからはじめよう環境によい暮らし～一人ひとりが環境を守り育てる主人公～
16年度	広げよう環境行動！みんなでつくる地球の未来
17年度	“もったいない”の心でひらく地球の未来

【環境月間】

表 3-5 環境月間（6月）の行事の概要（17年度）

行事名	実施機関	行事内容
京の環境を考える 作品コンクール	京都府、 京と地球の共生府 民会議	府内の小・中学生を対象に、環境問題をテーマとした絵画・ 標語の作品を募集 応募数 絵画412点、標語578点
京都府環境保全 功労者表彰	京都府	環境保全に関し特に顕著な功績のあったものを表彰 表彰数 13名、6団体
京都府環境 トップランナー表彰	京都府	環境の保全・創造に向けた先駆的・先進的な取組を行い、府 民の環境配慮行動に多大な影響を与えたものを表彰 表彰数 5団体
クリーン・リサイクル 運動	京都府、京都府教 育委員会、京都府 市長会、京都府町 村会、京と地球の 共生府民会議	京都府循環型社会形成計画に基づき、ごみの減量化・リサイ クルを推進するため、京都府及び府内市町村が中心となり、 府民、事業者とのパートナーシップにより、駅前、街頭、 スーパー前等で街頭キャンペーン等を実施 参加人数約56,400人
京都の自然200選・ 保全地域パネル展	京都府	地域のシンボリック的存在である優れた自然環境を選定した「京 都の自然200選」と保全地域のパネル展示
京都府低公害車 フェア2005	京都府	府公用車やメーカー出展の低公害車の展示・試乗、クイズラ リーなど 来場者数 1,500名
身近な川の生物調査	京都府	水生生物指標とする河川の水質調査 1,231名
季節の植物観察会、植 物園教室、展示会等	京都府	季節の植物に関する観察会、栽培方法の講習等 参加・来場人数 2,380名
ホテル探訪&草木昔遊 び	(財)京都ゼミ ナールハウス	ホテル鑑賞や花炭、ミニビオトープづくり 参加人数 24名
「畜産環境保全月間」 啓発活動	京都府	啓発活動等
府営水道浄水場周辺環 境美化運動	京都府	自然環境の保全を意識した事業活動の推進を目指した環境管 理の一環として、3箇所の浄水場の場内及び周辺の清掃活動 を実施
ネイチャー in 南山城	京都府教育委員 会、(財)京都府少 年教育振興会	身近な自然の中での遊びや体験活動・共同生活を通して、自 然の素晴らしさやその恵みを発見するとともに、自然や物を 大切に作る心を育て、生きる力を育てる。 参加人数 49名
わくわく探検隊	京都府教育委員 会、(財)京都府少 年教育振興会	り溪の自然の中で、自然に親しみ、自然の不思議に気づく さまざまな体験や観察を通して、自然や環境に対する豊かな 感性を培う。 参加人数 44名

②講座・研修会等の実施

13年度には「府環境トップランナー表彰」を受けた企業や団体の先進的な活動や取組を広く府民に紹介するため「京と地球の府民環境講座」を開催し、14年度も引き続き「第3回世界水フォーラム」関連事業として「水」をテーマに同講座を開催しました。

また、18年2月には、「京都議定書発効1周年記念事業」として講演会を開催しました。

さらに、日常の暮らしの中での環境に配慮した行動を考えてもらうための「環境にやさしいライフスタイル講座」や、省資源・省エネなどの環境に配慮した生活など消費者の生活創造を目指す「京都消費者フォーラム」なども開催しています。

③京都エコクラブ

「京都エコクラブ」は、**COP3（地球温暖化防止京都会議）***が開催された9年、「21世紀に向けて環境にやさしい社会をつくるためには府民一人ひとりの方々の主体的・積極的な環境保全の取組が重要である」との考えのもとに発足して以来、多くの府民の皆さんに御参加をいただき、情報誌の発行などの環境情報の提供を行ってきました。16年からは、よりタイムリーな情報提供を通じて会員の活動を応援するとともに、会員間の更なる交流を推進していくため、ホームページやメールマガジンの取組を実施しました。

④自然とのふれあい

府では、2年に設置した「緑と文化の基金」を活用し自然観察会を実施するなど、自然に直接ふれあうことで、自然のすばらしさや大切さを感じとってもらえるよう、様々な事業に取り組んでいます。

4 環境教育・学習機会の提供

①広域的な環境学習施策

(1) 京滋地球環境カレッジ

13年度から16年度まで、滋賀県と共同で、環境保全の分野で社会貢献活動を行いたいと思っている人等を対象に、地域や家庭において環境との関わりを考え、自ら行動する人づくりを進めながら、環境を学ぶことの大切さを広げていく体験的な環境学習講座を開催しました。

この事業を契機に、地域や年齢を超えた両府県民の環境分野での交流、ネットワークづくりが広がっています。

(2) 地球デザインスクール

府では、18年春に開園を予定している府立丹後海と星の見える丘公園の予定地において、市民参加で自然共生の公園づくりを進める「地球デザインスクール」というソフト活動を提唱し、取組を進めてきました。

14年にはこれまでの成果を生かし、有志約50名が「NPO法人地球デザインスクール」を設立。公園づくりをきっかけとして、自然と共生した持続可能な地域社会・自然と調和した地球環境をデザインできる人材の育成を行うことを目的として、有機農法を学びながら里地を整備する「ぐうたら農学校」、土地のエコロジカルな素材を使った建築ノウハウを開発する「土の建築教室」などを開催しています。

(3) 広域連携によるフィールド・ミュージアム等

複数の市町村が連携し、広い地域全体（フィールド）を自然・歴史・文化に溢れた博物館（ミュージアム）としてとらえ、多様な自然体験・環境学習の機会を整備・演出する取組が進められています。

府南部の山城地域の東部（城陽市、井手町、山城町、木津町）では、山際を貫く道を「山背古道」と名付けて再生し、埋もれた魅力の再発見と地域の人々による「まちづくり」の取組を地元ボランティア組織と連携しながら進めています。

②子どもを中心とした環境学習等の取組

(1) 体験的環境学習推進事業

環境省の体験的環境学習推進事業を活用して、13年度には府の学習拠点である地球デザインスクール及び南山城少年自然の家で子どもたちを対象としたモデルプログラム事業を実施するとともに、環境学習交流事業として「環境まなびの交流会」を開催しました。また、学習拠点における連携方策等についての検討も行いました。

(2) エコスクールin京都

府では、10年度から、小・中学生の環境保全意識の昂揚を図るため、身近な環境問題について体験・学習できる「エコスクールin京都」を夏休み期間中に開催しています。

表3-6 「エコスクール in 京都」開催状況（17年度）

教室名	日時	会場	内容	参加者数
エコスクールin京都 青少年地球環境科学教室	17. 8. 9	府保健環境研究所	「宇宙と生命（いのち）の神秘に迫る」 ・踊る放射線—霧箱を作ろう— ・ミラクル！酵素の分解パワー ・特捜！DNAの正体	69人
エコスクールinまいづる	17. 7. 23	舞鶴市中央公民館	・昆虫採集とお話 ・地球温暖化のお話と実験	37人
エコスクールin木津	17. 8. 6	木津町リサイクル 研修ステーション	・お天気教室 ・雪をつくろう	23人

(3) エコ親子認定事業（夏休み省エネチャレンジ）

府では、15年度から小学生及びその家族を対象とした「エコ親子認定事業」を実施しています。

親子で行う家庭での省エネ等の取組を、ポイントを貯めるという楽しみを持って継続することにより、家族のふれあいを深めながら地球温暖化対策に対する意識の向上を図ることを目的とするもので、17年度は、各家庭や小学校から「エコ親子認定チェックシート」約8,000部の配布希望があり、16年度の2倍以上の約1,300組を「エコ親子」として認定しました。

(4) 全国星空継続観察

環境省では、63年度から、星空観察という身近な方法を通じて大気環境保全に関する意識を高めることを目的に、全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）を夏期と冬期に実施しています。府では、学校や市町村、インターネット等を通じて広く募集し、16年度は、25団体延べ336名の参加を得ています。

図3-5 エコ親子認定チェックシート



表3-7 「全国星空継続観察」参加団体

	13年度		14年度		15年度		16年度	
	参加団体	延べ観察 参加人数	参加団体	延べ観察 参加人数	参加団体	延べ観察 参加人数	参加団体	延べ観察 参加人数
夏 期	16	632	16	583	12	217	13	209
冬 期	9	116	7	54	11	73	12	127
合 計	25	748	23	637	23	290	25	336

(注) 京都市窓口分含む

(5) 身近な川の生物調査

環境省では、59年度から住民参加による水生生物調査を各地で実施するよう呼びかけています。府では、環境教育の一環として府内の中学・高校の協力も得ながら参加者を広く募集し、調査を進めています（「身近な川の生物調査」）。16年度は、小学生518人を含む1,231人の参加を得ています。

表3-8 「身近な川の生物調査」参加団体

	参加団体数(人数)			
	13年度	14年度	15年度	16年度
小学校	12(455人)	18(708人)	19(721人)	10(518人)
中学校	2(87人)	2(40人)	4(65人)	5(156人)
高校	8(301人)	6(202人)	8(204人)	6(200人)
一般参加	8(366人)	19(523人)	12(422人)	15(357人)
合計	30(1,209人)	45(1,473人)	43(1,412人)	36(1,231人)

(6) こどもエコクラブ

環境省が呼びかけ、全国で子どもの自主的な環境保全活動の輪を広げる「こどもエコクラブ」については、17年11月末現在、30クラブ、814名の子どもが加入しており、子どもの創意・意欲を活かした地域における環境保全の活動が展開されています。

府では、府内のクラブの活動発表やクラブ間の交流を目的として、京都環境フェスティバルにおいて「こどもエコクラブ交流会」を実施しています。

(7) 京の環境を考える作品コンクール

府では、毎年、府内の小・中学生を対象に、環境問題について学び考えてもらうため、絵画及び標語について「京の環境を考える作品コンクール」を実施し、府環境フェスティバルにおいて、優秀な作品を作った子どもたちを表彰したり、作品の展示を行っています。

表3-9 「京の環境を考える作品コンクール」受賞一覧(17年度)

部門	賞	氏名	学校名	学年	作品
絵画の部	京都府知事賞	志野 正宗	京都市立二条城北小学校	4	(別掲)
	京都府教育委員会教育長賞	上野 翔平	亀岡市立育親中学校	2	
	京都市教育委員会教育長賞	宮里 悠希	京都市立朱雀中学校	3	
標語の部	京都府知事賞	中村 智美	京都市立春日丘中学校	2	守ろうよ 自然がおりなす 京の四季
	京都府教育委員会教育長賞	農添 紅葉	亀岡市立別院中学校	3	聞こえるね 森の喜び 川の歌
	京都市教育委員会教育長賞	松村 京香	京都市立伏見住吉小学校	5	出たごみは 変身させたり、もとどおりにしたり、命をふきこもう

図3-6 京の環境を考える作品コンクール（絵画の部）受賞作品（17年度）



京都府知事賞
京都市立二条城北小学校4年 志野 正宗



京都府教育委員会教育長賞
亀岡市立育親中学校2年 上野 翔平



京都市教育委員会教育長賞
京都市立朱雀中学校3年 宮里 悠希

5 学校等における環境教育・学習の推進

府では、「指導の重点」に環境教育の項を設け、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階を踏まえた組織的・計画的な取組を推進しています。

6～8年度に指定した環境教育推進校「ふるさと**アメニティ***・スクール」では、地域に根ざした体験的な学習を通して組織的な環境教育を推進しました。この研究成果の普及・拡大を図るため、9～12年度は環境教育ブロック「環境を守り育てる協力校」を指定し、特に小・中学校の系統性に配慮しつつ、地域の人々の協力や資源を活用した総合的な環境教育を推進しました。

さらに、14年度には、第3回世界水フォーラムの開催を契機として、環境教育推進校「京のエコスクール」を小中高各2校指定しました。指定校においては、学校と家庭、地域社会とが連携を図りながら、地域の水環境について実践的な学習を進め、その成果として「京の水マップ」の作成や指定校の取組を世界水フォーラム関連の催し等で発表するとともに、自らが環境目標を定め、それに向かって取り組む等の環境保全や、よりよい環境を創造する「エコスクール活動」を推進することにより、主体的に行動する実践的態度と能力等の育成に努めました。15年度は、引き続き「京のエコスクール」指定校において「エコスクール活動」を推進し、その成果を研究発表大会やホームページ等で波及に

努めました。16年度からは、新たに小・中・高等学校計7校を「京のエコスクール」として指定して、環境教育の一層の充実を図るとともに、その成果の波及に努めています。

また、2年度から小学生向けの環境教育の副読本として「京都の自然発見」を、13年度からはこれを大幅に改訂した「環境まなぶっく」を作成し、府内の小学5年生全員に配布しています。11年度には学齢児未満の幼児向けに紙芝居（うみ・もり・そらとのおやくそく）を作成し、府内のすべての幼稚園や保育所に配布しました。

高校教育においては、府立木津高校に「環境コース」、府立南八幡高校に普通科総合選択制「自然環境コース」を設置しているほか、15年度からは順次全府立高校において「エコスクール活動」を展開し、全校をあげて数値目標を設定し、環境負荷の軽減に取り組むとともに啓発のための植樹を行っています。さらに、環境教育を授業に取り入れるなど、各学校で個性ある実践活動が進んでおり、15年度には、府立北稜高校では全国の普通科高校で初めて「K E S ・ 環境マネジメントシステム ＊ ・ スタンダード」（京の**アジェンダ21 ＊**フォーラム認定）を、府立八幡高校では近畿の高校で初めて**I S O 14001 ＊**をそれぞれ認証取得しました。

また、各府立高校独自の環境マネジメントシステム（EMS）の構築を目指し、京都精華大学との連携を実施しています。

こうした取組については、府教委広報等のほか、9年度及び11年度には指導資料「京と地球の環境教育」、14年度には「京の水マップ」、16年度には「守ります、私たちの地球を！」を作成し、府内の学校や府民へ広く普及に努めてきました。

表3-10 学校等における環境教育・子どもを対象とした環境学習の取組

事業名	事業の概要
環境教育推進事業 「京のエコスクール活動」	14・15年度小中高等学校計6校、16・17年度小中高等学校計7校を指定し、環境保全やよりよい環境を創造するための実践的な活動、発達段階に応じた系統的な指導等について先導的な実践研究を行い、環境教育の一層の充実を図る。 14年度には「京の水マップ」、16年度には「守ります、私たちの地球を！」を作成し、全小中高等学校に配布した。
「環境まなぶっく」の作成	身の回りの自然や生活を通して環境保護の大切さを学習する教育副読本として府内の小学5年生全員に配布している。
森と小川の教室推進事業	少年自然の家において、小・中学生や保護者を対象にした自然体験や指導者等を対象にした研修会を行っている。 (16年度) 南山城少年自然の家「自然と科学の体験教室」等4事業 るり渓少年自然の家「冒険隊」等4事業
省庁連携子ども体験型環境学習推進事業	文部科学省の省庁連携子ども体験型環境学習推進事業を活用し、14～16年度綾部市で実施。 水質調査と水生植物の観察、河川のごみ拾い等
エコスクール活動	環境問題に対する意識の高揚を図るとともに、循環型社会を構築する態度を育成するため、数値目標を設定した節電・節水・ゴミの減量等及び「エコスクール活動」啓発のための植樹を実施する。 (17年度) 亀岡以北の府立高校17校及び北桑田高校
環境マネジメント導入プロジェクト	京都精華大学人文学部環境社会学科と京都府立高等学校が連携することにより、環境への負荷を低減するよう配慮・改善するための「PDCAサイクル」導入による各府立高校独自の「環境マネジメントシステム（EMS）」を構築する。 (17年度) 府立高校3校（八幡、南丹、須知）

第2節 自主的な環境保全・創造活動の促進、推進

1 現状と課題

地球環境問題の高まりや循環型社会構築に向けた取組が定着し、消費者・需要者が「環境」を商品選択の重要な要素としてとらえる動きが拡大しつつあること、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法等への対応など企業の社会的責任が高まりつつあることから、「環境」を競争力強化の重要な柱ととらえ、I S O 14001などの環境認証取得や**環境報告書***、**環境会計***の公表、**グリーン購入***の取組など環境経営を指向する企業・事業所等が増えてきています。

2 環境に配慮した事業活動の促進

①環境管理の推進

「環境管理」とは、企業等が法令の規制を遵守するにとどまらず、自主的・積極的に環境保全のための行動を行うことを指しており、府環境を守り育てる条例においても、環境管理の推進を位置づけ、一定規模以上の事業者には率先行動を期待する規定を設けています。また、事業所内での環境管理の推進役としての「環境管理総括者」の選任を求めており、17年3月末現在で55名（京都市内含む）が選任されています。

また、府中小企業技術センターでは、環境保全に関する先進的な取組事例を紹介する環境講演会等の事業を実施しているほか、ホームページに「環境相談」のコーナーを設けるなど、必要な情報の提供に努めています。

②公害防止組織

様々な事業活動に伴う公害の発生を未然に防止するためには、発生源に対する規制や設備改善とともに、企業内における諸施設の維持管理、自主監視等が不可欠です。

この趣旨から、46年に「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」が制定され、企業内に公害防止管理者等を選任し、公害防止体制の整備を図らなければならないこととなりました。また、府環境を守り育てる条例においても、特定の事業者に府独自の公害防止管理者の選任を義務付け、講習会を実施するなど更に徹底を図っています。

③国際環境規格 I S O 14001等の認証取得

事業者が、環境に関する目的・目標などを自ら設定し、その達成に向けて取り組む環境マネジメントシステムについては、国際環境規格 I S O 14001が確立されています。

事業所だけでなく大学や自治体での取得や取得に向けた動きも増えてきており、府内の認証取得件数は17年11月までに532件となっています。

また、経費や体制面から I S O 14001の認証取得が困難な中小企業向けに、京のアジェンダ21フォーラムでは、13年度から「K E S ・環境マネジメントシステム・スタンダード」の審査・認証を始め、府域や業種・業態を超えた広がりを見せています。17年12月までに府内で335件の企業等を認証したほか、14年度から K E S 学校版「環境にやさしい学校」の認証を開始し、17年12月までに府内で8校を認証しています。

これらの環境認証取得の支援のため、府では、府中小企業技術センターが I S O 14001認証取得のための講習会等を実施しています。また、(財)京都産業21では、環境関係の専門家派遣や認証取得の支援を行っています。

さらに、17年度からは、(社)京都工業会、京都商工会議所、京都市及び府が共同で、「地球温暖化対策のための中小企業環境マネジメント推進事業」として府内10箇所ですべて「環境マネジメントシステム推進セミナー」を開催するなど、中小企業を重点的に対象とした認証取得支援事業を展

開しています。

④事業所等のその他の取組

国際環境規格 I S O 14001 の認証の積極的な取得に加え、企業が自らの環境方針を明確にし、事業活動に伴って発生する環境に対する影響の程度やその影響を削減するための自主的な取組・成果をとりまとめて「環境報告書」という形で公表するケースや、事業活動における環境保全に関するコスト（投資額及び費用額）とその効果を可能な限り定量的（金額又は物量ベース）に把握し「環境会計」として公表するケースが増えてきており、環境省の「環境にやさしい企業行動調査」によると、16年度は861の企業が環境報告書を作成し公表しています。

なお、環境省では、「環境報告書ガイドライン」、「環境会計ガイドライン」、「環境保全コスト分類の手引き」、「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン」等を作成、公表し企業の自主的な環境保全取組を支援しています。

また、製造業にとどまらず、流通・サービス業等を含む幅広い業種で「環境」をキーワードにした取組が活発化してきています。

京都市の京果イフコ株式会社では、青果物の容器に繰り返し使用できるリサイクル容器を導入し、循環型システムの提案に取り組み、綾部市の A カード会では、買い物袋持参者、レジ袋・包装紙辞退者に通常の買い物ポイントに加えてエコポイントをプレゼントしています。また、京都市の関電産業株式会社及び日本駐車場開発株式会社では、低公害車の優待駐車場経営に取り組むなど、環境を意識した取組が各地で行われています。

そのほか京都百貨店協会（京都市内 6 店が加盟）では、2010 年度のごみ排出量を 1997 年度と比べ約 20% 削減する自主目標を設定し、ごみ減量化を進めています。

府では、環境保全をはかるために必要な資金への融資のほか、伏見区の手筋商店街のソーラー発電アーケード整備（21 世紀型商業基盤施設整備事業）や、宇治市の宇治橋通商店街と開商店街の「人にやさしいエコストリート宇治ふれあい商店街事業」（商店街等活性化先進事業）への補助を行ってきたところです。

⑤経済団体等の取組

個別の企業・事業所における取組に加え、経済団体でも積極的な展開が見られます。

（社）京都工業会では、環境関連事業として定期的に「京都環境管理研究会」や「I S O 14001 環境マネジメントシステム・構築セミナー」等を開催、省資源・省エネルギー見学会やリサイクル推進活動の研究等環境保全のための関連事業を推進しています。

京都商工会議所では、「都市美化・環境対策特別委員会」を設置し、I S O 14001 及び K E S ・環境マネジメントシステム・スタンダードに関する啓発普及・認証取得支援をはじめ、環境問題に関する中小企業向け普及・啓発事業や**環境ビジネス***の育成支援、小学生に対する環境学習事業の展開など、環境都市・京都づくりを目指して様々な環境関連事業を推進しています。

京都中小企業家同友会では加盟する府内の中小企業を中心に、11 年 4 月から「環境問題勉強会」をスタートしています。この勉強会では環境問題に関する様々なグループに分かれ、省エネ、自然エネルギー利用、リサイクル、廃棄物の再生、二酸化炭素の排出削減などの研究や実践が行われています。

また、11 年 6 月、関西圏域における行政・経済界の広域的な連携を進めるため、「関西広域連携協議会」（代表理事：新宮康男）が設立され、広域連携課題の一つとして「環境問題への対応」を掲げました。軽装と適正冷房を率先実行する「関西夏のエコスタイル・キャンペーン」をはじめ、グリーン購入運動の展開、地球温暖化対策の推進、廃棄物の減量化・リサイクルなど、「環境共生圏・関西」の実現に向けた様々な取組が行われており、府も積極的に参画しています。

3 民間団体等の自発的な活動の促進

①府民、環境NPO等の自発的な活動促進の支援

府民一人ひとりの日常生活に起因する都市・生活型公害の顕在化や、より快適な環境の創造を求めるニーズ等の高まりに伴って、地域における足元からの環境保全活動への取組を推進することが求められており、府では「緑と文化の基金」を活用した、地域の自然と文化に学ぶみどりの体験活動支援事業など、民間活動団体等の草の根レベルの自然体験活動に対する支援を行っています。

また、長期にわたり環境保全に顕著な功績があった方々を環境保全功労者として毎年6月の環境月間に表彰しており、56年から17年までに484団体・人を表彰しました。

表3-11 府環境保全功労者表彰団体・氏名(17年6月表彰)

区分	氏名・団体名	住所等	表彰理由
個人	黄丹弘芳	京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
	塩見一幸	綾部市	多年にわたり京都府緑の指導員(鳥獣保護員)として自然環境保全に貢献
	杉田文子	京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
	千阪貞男	舞鶴市	多年にわたり京都府緑の指導員(鳥獣保護員)として自然環境保全に貢献
	辻井茂	京都市	多年にわたり京都府緑の指導員(鳥獣保護員)として自然環境保全に貢献
	永井恵美子	京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
	中野均	日吉町	多年にわたり京都府緑の指導員(鳥獣保護員)として自然環境保全に貢献
	藤井要藏	京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
	船瀬茂信	宇治市	多年にわたり京都府緑の指導員(鳥獣保護員)として自然環境保全に貢献
	松尾信介	京丹後市	多年にわたり自然公園指導員として自然環境保全に貢献
	明城安子	京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
	森田岩男	京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
	安田卓生	野田川町	多年にわたり京都府緑の指導員(鳥獣保護員)として自然環境保全に貢献
	団体	大丹生校区の海辺を美しくする会	舞鶴市
桂東自治連合会		京都市	多年にわたり清掃活動等地域の環境美化に貢献
京都市立桂川小学校PTA		京都市	多年にわたり古紙の回収等地域のごみの減量・再資源化に貢献
京都府立八幡高等学校		八幡市	環境マネジメントシステムの構築やISO14001の取得等に取り組み、地球環境保全に貢献
殿田を美しくする会		日吉町	多年にわたり浴道における花の植栽等地域の環境美化に貢献
福知山商工会議所		福知山市	地域の各種イベントにおいて「ゴミもちカエルキャンペーン」を展開し、地域のごみの減量・再資源化に貢献

②府環境トップランナー表彰、「エコ京都21」制度

地球温暖化防止や循環型社会の形成など、環境の保全や創造に向けた先駆的・先進的な取組を行い、府民の環境配慮行動に多大な影響を与えた事業者及び団体を表彰することによって、「環境先進地・京都」を目指す意識の高揚を図ることを目的に、「府環境トップランナー表彰」制度

を13年度に創設しました。

また、環境に配慮した事業所等の拡大を図るため、二酸化炭素の排出削減や廃棄物の排出削減に積極的に取り組んでいる事業所や、創意あふれる環境配慮活動を推進している学校、地域、商店街等を認定・登録する「エコ京都21（京都・環境を守り育てる事業所等）」制度を13年度に創設し、17年12月現在、138事業所等を認定・登録しています。

特に、16年度からは、より高いレベルで取組を進める事業所等を「☆☆☆マイスター」「☆☆アドバンス」として認定することとし、マイスターに4事業所を、アドバンスに9事業所を認定しました。（資料編資料4参照）

表3-12 府環境トップランナー表彰団体・事業者（17年度）

事業者（団体）名	市町村名	事 績
特定非営利活動法人 環境市民	京 都 市	環境にやさしい消費行動を促す「グリーンコンシューマー」の取組を普及させるとともに、京都グリーン購入ネットワークの設立・運営に中心的役割を果たすなど、環境先進地をめざす府民意識の高揚に寄与
京都精華大学	京 都 市	日本で初めて大学全体を対象とするISO14001認証を取得するとともに、教育の一環として、市町村や学校等の環境マネジメントシステム構築への支援活動に取り組むなど、環境先進地をめざす府民意識の高揚に寄与
特定非営利活動法人 地球デザインスクール	宮 津 市	里山の保全や地域資源の再発掘を通じた持続可能な地域社会のモデルづくりを府民協働で進めるとともに、それを支える人材の交流・育成に努めるなど、環境先進地をめざす府民意識の高揚に寄与
株式会社 堀場製作所	京 都 市	環境経営に積極的に取り組むとともに、その経験や知見を活かしてグリーン調達の普及等業界全体の環境配慮活動に先導的役割を果たすなど、環境先進地をめざす府民意識の高揚に寄与
株式会社 村田製作所	長岡京市	環境経営に積極的に取り組むとともに、事業活動におけるゼロエミッションの達成や地域の環境保全活動に貢献するなど、環境先進地をめざす府民意識の高揚に寄与

4 府の環境保全・創造に関する活動の推進

府では、11年11月に府本庁舎を対象にISO14001の認証を取得し、府環境基本計画の基本理念・長期的目標に基づく環境方針・環境目的を設定し、毎年、この環境目的を実現するための環境目標を設定して進行管理・評価・見直しを行っており、17年度も124の目標を掲げて取り組んでいます（次ページ表3-13及び表3-14参照）。

一方、主要事業を中心にISO規格と同様のPDCAサイクルを活用した管理・運営を行うシステムが構築されてきたことを機に、各システムとの関連性について見直しを行い、これまでISO14001認証取得で培ったノウハウを活かし、本府の現状により適応した環境マネジメントシステムを新たに構築することとしています。

表3-13 府環境マネジメントシステム 【16年度環境目的・目標（125目標）の達成状況】

環境目的 〔環境基本計画〕 の長期的目標	環境目標数	主な環境目標と取組例	環境基本計画達成に向けた成果等
環境の世紀を拓く環境先進地・京都の創造	35	<ul style="list-style-type: none"> ○府内の様々な活動主体と共に地球温暖化防止活動推進センターを設立し、その活動を支援 ○二酸化炭素吸収源の拡大による温暖化防止に資するため、中国陝西省における植樹協力事業を実施 ○『環』の公共事業行動計画に基づき、実施ガイドラインを策定 ○環境トップランナーを支援する表彰、認証事業を実施 「環境トップランナー」3団体等を表彰 「エコ京都21」30事業所等を認定・登録 	<p>様々な活動主体の連携による地球温暖化防止活動の推進、府内事業者等の先取組の顕彰・支援等による地球環境の保全の推進、自主的な取組の拡大促進</p>
すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全	22	<ul style="list-style-type: none"> ○府庁舎の温室効果ガス削減、廃棄物量等の削減等 温室効果ガス：前年度比98t-CO₂の増加 廃棄物量：前年度比57,400%の増加 ○環境啓発冊子を作成し、府内の全小学校5年生に配布 ○京都府営水道の環境保全活動を府民に紹介するための京都府営水道環境レポートの作成 	<p>公共工事やオフィス活動を通じ、府自ら環境への配慮行動を率先実行するとともに、環境施策や環境問題に関する情報を積極的に提供・啓発し、府民・事業者の環境に配慮した主体的行動への参画の促進</p>
自然と人間との共生の確保	15	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然とふれあうための自然観察会の開催（開催数 6回） ○身近に生き物を呼び戻すビオトープの普及を図るための研究を実施（5講座の実施） ○府内の野生生物種や生態系等の生物多様性の保全の取組を支援する「京都府生物多様性保全推進事業」の実施 	<p>自然とのふれあいや自然環境への負荷低減を通じた取組により、府民の環境保全意識の高揚の醸成</p>
歴史的、文化的環境の保全	2	<ul style="list-style-type: none"> ○民俗文化資料の保全や古典芸能振興を行う団体を支援 民俗文化資料保存団体 71 古典芸能支援団体 14 	<p>伝統文化の保全・継承を図り、地域文化の創造の促進</p>
快適な環境の創造	10	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな漁場を維持する上で、森林から流れ出る河川の水が重要な役割を果たしていることへの理解を広めるため、漁民の森づくりを漁業者やボランティアにより推進（漁民の森づくりのための植林活動 0.80ha） ○農山村地域や都市近郊林の原風景であり、動植物の生息、生育地として重要なため池の保全整備を推進 ○京都府道路緑化計画「花と緑の回廊1000km構想」に基づき、道路の緑化を推進 	<p>美しく豊かな自然とのふれあいの場の整備・提供、水環境の向上や緑化推進等を進めることにより、快適な都市環境の形成の推進</p>
環境負荷の少ない循環型社会の構築	41	<ul style="list-style-type: none"> ○府民一人ひとりの不法投棄に対する意識高揚を図るため、不法投棄等撲滅京都府民会議を開催 ○不法投棄の未然防止等のための監視体制の強化 不法投棄等監視員の配置 12人 監視カメラの配置 12台 ○府内の交通渋滞解消や公共交通機関の利用促進を図るため、まちづくりや環境の視点も踏まえながら、交通マネジメント施策基本計画を策定 ○下水道汚泥のリサイクル率の維持・向上を図り、下水道汚泥の再利用を促進（再利用率 64%） ○京都府庁グリーン調達方針を策定して、府自らが率先して環境物品等の購入に努めるとともに、その取組結果を公表 	<p>廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルを促進し、ごみ処理量の削減や、不法投棄防止等による環境負荷低減の取組の推進</p>

表3-14 府環境マネジメントシステム【17年度環境目的・目標（124目標）の概要】

環境目的 （環境基本計画 の長期的目標）	環境目標数	主な環境目標と取組例
環境の世紀を拓く環境先進地・京都の創造	34	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民、環境団体、事業者、行政等のパートナーシップを強化し、地域における温暖化対策を一層推進するため、施策推進体制を整備し、その活動を支援 ○ 二酸化炭素吸収源の拡大による温暖化防止に資するため、中国陝西省における植樹協力事業を実施 ○ 17年度以降の新たな施策展開を図るため、新たな地球温暖化対策プラン（改訂版）を策定 ○ 丹後地域の住宅や公共施設において小型、中型風力発電を設置する事業の支援、助成 ○ 「京都エコエネルギープロジェクト」（丹後地域における新エネルギーの需給制御技術の実証実験）の実施を通じて環境共生の地域づくりを推進 ○ 人と自然が共生する環境共生型の地域づくりを進めるため、『環』の公共事業行動計画を推進 ○ 先進的・先駆的な環境保全に取り組む企業や団体、府民等のトップランナーを表彰 ○ 「エコ京都21」制度を通じた環境に配慮した事業所の拡大・内容の充実 ○ ウッドマイレージCO2を組み込んだ京都府産木材認証制度による認証木材使用
すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境配慮指針に基づき、公共工事における環境配慮度をチェック ○ パートナーシップに基づく環境フェスティバルの開催 ○ 幅広い府民の環境保全の気運醸成に向け、京都エコクラブの勧誘活動を推進 ○ 環境啓発冊子を作成し、府内の全小学5年生に配布 ○ エコスクールin京都事業として、青少年地球環境科学教室を開催 ○ ISO14001認証取得を支援するため講演会の実施及び専門家を派遣 ○ 温室効果ガス削減の取組を進めるとともに、エコオフィス活動を推進 ○ 「電子府庁」を推進し、府民サービスの向上や行政運営の効率化と併せ、環境負荷を軽減
自然と人間との共生の確保	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な自然とふれあうため自然観察会を開催 ○ 絶滅のおそれのある野生生物を保全するための制度の検討 ○ 京都府レッドデータブックに掲載されている絶滅のおそれのある野生生物の情報収集と保全に関する啓発 ○ 府内における外来種の被害実態の把握と駆除方策の検討
歴史的、文化的環境の保全	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民俗文化資料の保全や祇園祭山鉾懸装品の新調を行う団体を支援 ○ 古典芸能振興を行う団体を支援
快適な環境の創造	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集落水源地の森林整備を行い、集落の水環境を向上 ○ 豊かな漁場を維持する上で、森林から流れ出る河川の水が重要な役割を果たしていることへの理解を広めるため、漁民の森づくりを漁業者やボランティアにより推進 ○ 環境に配慮した河川等の水辺空間の整備事業を積極的に推進 ○ 農山村地域や都市近郊林の原風景であり、動植物の生息、生育地として重要なため池の保全整備を推進
環境負荷の少ない循環型社会の構築	43	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民一人ひとりの不法投棄に対する意識高揚を図るため、不法投棄等撲滅京都府民会議を開催 ○ 産業廃棄物税に基づく税金を活用し、産業廃棄物の発生抑制やリサイクルに対する取組に対し補助制度を創設し助成 ○ 発生源に対し、ダイオキシン類の基準適合状況を把握し指導するため、排水・排出ガス検査等を実施 ○ 「京都新エネルギービジョン」に基づき新エネルギーの導入を推進 ○ 事業者による化学物質の適正管理を推進するため、PRT法に基づく適正な届出を促進し、府域の集計・公表を実施 ○ 道路混雑を緩和し、環境負荷が小さく快適な交通社会を実現するため、従来からのハード整備に加え、ソフト施策を組み合わせた交通重要管理を推進 ○ グリーン購入を府内に広く普及し定着させるためネットワークを設立し、事業の委託などを実施 ○ 事業者のゼロエミッションに向けた取組を支援するため、再生利用等の技術情報の提供及びゼロエミッション講習会、ゼロエミッションの専門アドバイザー診断等を実施 ○ 環境負荷の低減に積極的に取り組む企業等の支援として、環境認証等取得事業者からの調達を実施

【地球にやさしい21世紀府庁プラン】

府自らが地球にやさしい取組を率先して実行するため、9年度から「地球にやさしい府庁づくり計画」を策定し取組を進めてきましたが、10年に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」で、地方公共団体の事務・事業に係る**温室効果ガス***排出抑制のための計画（実行計画）の策定が義務付けられたことから、13年7月に「地球にやさしい21世紀府庁プラン」として改定し、取組を進めています。

なお、16年度における府の事務・事業に伴う温室効果ガス総排出量は87,842 t-CO₂であり、基準年度である11年度対比では805 t-CO₂（0.9%）の増加となっています。今後とも府施設における更なる省エネルギーの徹底を呼びかけるとともに、府施設における省エネルギー、新エネルギー設備の導入等を更に進めていくこととします。

○計画の期間

13年度～17年度（基準年度：11年度、目標年度：17年度）

○削減目標

府の事務・事業から排出される温室効果ガスを5.5%削減

○計画の対象となる機関

府のすべての機関（府立学校、警察署を含む）

表3-15 府の事務・事業から排出される温室効果ガス排出量の推移

温室効果ガスの種類	16年度結果 (単位：t-CO ₂)	基準年度対比(増減)		15年度対比(増減)	
		数値	%	数値	%
二酸化炭素	85,475	757	0.9%	2,665	3.2%
メタン	563	-50	-8.1%	-13	-2.2%
一酸化二窒素	1,680	55	3.4%	119	7.6%
ハイドロフルオロカーボン	124	43	54.4%	11	9.9%
総排出量	87,842	805	0.9%	2,782	3.3%

【本庁のエコオフィス活動】

本庁でのエコオフィス活動については、「地球にやさしい21世紀府庁プラン」の本庁舎における取組として、毎年、ISO14001の環境マネジメントシステムの中で取組を進め、その取組結果を取りまとめて公表しています。

16年度については、「温室効果ガスの更なる削減」「廃棄物量の更なる削減」「両面コピー率の更なる向上」「コピー用紙購入枚数の削減」及び「各課での独自目標の設定」を環境目標として設定、本庁の全所属で取組を行いました。

11年度からの6年間の取組の継続により職員の意識は向上し、一定の取組成果が得られていますが、17年度についても16年度と同項目を環境目標に掲げ、各所属ごとに数値を把握できる取組については、各所属の前年度実績を基に目標達成に向けた取組も行うなど、より高いレベルでの取組を継続して目指しています。

【グリーン購入活動】

需要面から循環型社会への転換を促進するため、13年11月に「府庁グリーン調達方針」を施行し、府庁のすべての機関において府庁自らが事業者・消費者として環境にやさしい物品等の一層の購入に努めています。なお、16年度の取組結果については、府ホームページでも公表しています。

また、17年度からは、ISO14001やKESなど環境認証等を取得している中小企業者から優先して物品を調達する「京滋グリーン入札」を、「京都議定書誕生の地」としての京都府と「環境こだわり県」を自負する滋賀県が連携して実施することとしています。

表3-16 府庁グリーン調達実績 (16年4月～17年3月)

分野	品目	総調達数量に占める環境配慮物品等の調達割合(%)
納入印刷物(1品目)	納入印刷物	90.3
紙類(9品目)	コピー用紙	99.3
	情報用紙・印刷用紙・衛生用紙など	60.5
文具類(82品目)	文具	96.9
機器類(10品目)	いす・机・棚・掲示板など	99.5
	コピー機・電子計算機など	99.8
OA機(10品目)	冷蔵庫・テレビなど	98.8
家電製品(6品目)	エアコンディショナー等(3品目)	100.0
エアコンディショナー等(3品目)	エアコンディショナーなど	100.0
温水器等(4品目)	電気給湯器など	100.0
	蛍光灯照明器具	100.0
照明(3品目)	蛍光管・電球形蛍光管	97.7
	制服・作業服	98.0
制服・作業服(2品目)	制服・作業服	98.0
インテリア・寝具(7品目)	カーテン・毛布など	96.5
	カーペット	95.2
作業用手袋(1品目)	作業用手袋	97.3
その他繊維製品(3品目)	集会用テント、ブルーシートなど	61.0
自動車(3品目)	自動車など	100.0

印刷用紙及び納入印刷物については、国の判断基準(70%)を上回る古紙配合率100%の用紙を使用することとした。上記の品目以外の公共工事(56品目)については、努力目標であり集計の対象としていない。

第3節 環境情報の整備・提供

府民、NPO、事業者等と協働して環境保全を行っていくためには、環境に関する情報を共有し、共通の認識を持つことが重要です。

府では、府環境を守り育てる条例に基づき毎年「府環境白書」を作成するとともに、府の広報紙「府民だより」、テレビ・ラジオ等の府広報番組や、インターネットなどの各種媒体により様々な環境情報の提供を行っています。

8年から設置している「^{きょう}京と地球の環境ホームページ」(<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/>)では、最新の条例や計画・プランの情報、府環境フェスティバル等のイベント情報、事業者向けの講習会・説明会等の開催情報、脱地球温暖化社会や循環型社会に向けた府の各種施策、「京都の自然200選」や絶滅のおそれのある野生生物等「**府レッドデータブック***」の情報、子ども向け環境学習コーナーなど、環境情報の充実と最新情報の掲載に努めており、府のホームページの中でもアクセス件数が最も多いページのひとつとなっています(16年度の府全体でのアクセス件数が月間約557万件、環境のページが約43万件)。

府民だよりでは、6月の環境月間、12月の地球温暖化防止月間などに併せて環境特集を掲載するとともに、14年度からは「エコ&はじめの地球だいすキッズ」コーナーを設け、子どもにもわかりやすい地球にやさしい暮らし方を毎月紹介しています。

また、環境施策や環境関連の各種事業を科学的、総合的に推進するためには、環境に係る情報を広く体系的に収集し、分析することが大切です。

府では、大気、水質及び産業廃棄物に関しては、それぞれ電算機を活用した「大気発生源情報管理システム」「水質汚濁総量管理システム」及び「産業廃棄物情報管理システム」の整備を図っており、各種の発生源や環境質に関するデータの管理及び総合的な解析を行っています。

その他、高浜原子力発電所に係る環境放射線等の監視情報を提供するため、舞鶴・綾部市内の府総合庁舎、保健所、市役所や府庁、府保健環境研究所等に屋内・屋外表示板を設置するとともに、インターネットのホームページ(<http://www.aris.pref.kyoto.jp/>)を12年度から設けています。